



私がいちばん好きなものは  
SAKURA のクレヨンだ

何十年も  
ほとんど変わらない  
あの黄色いパッケージ



世紀末

中国の社会が大きく変わった

国営工場や機関に勤めていた多くの親たちは  
安定した仕事を失った

就学前だった私は  
よく一人で家にいた

テレビと、絵を描くこと  
それがその頃の  
ほとんど唯一の友達だった



**経**済が厳しい時代でも  
私は毎年、クレヨンを贈られていた

コンクリートに描くチョークより  
色が豊かで、長く残るクレヨンは  
とても大切な存在だった

就学前から小学校のほとんどの間  
新学期が始まると  
文房具店で  
あの黄色いクレヨンを選んだ





小学校高学年になる頃から  
学習のリズムは急に慌ただしくなった

クレヨンは  
黒いボールペンに置き換えられ  
色は少しづつ  
消えていった

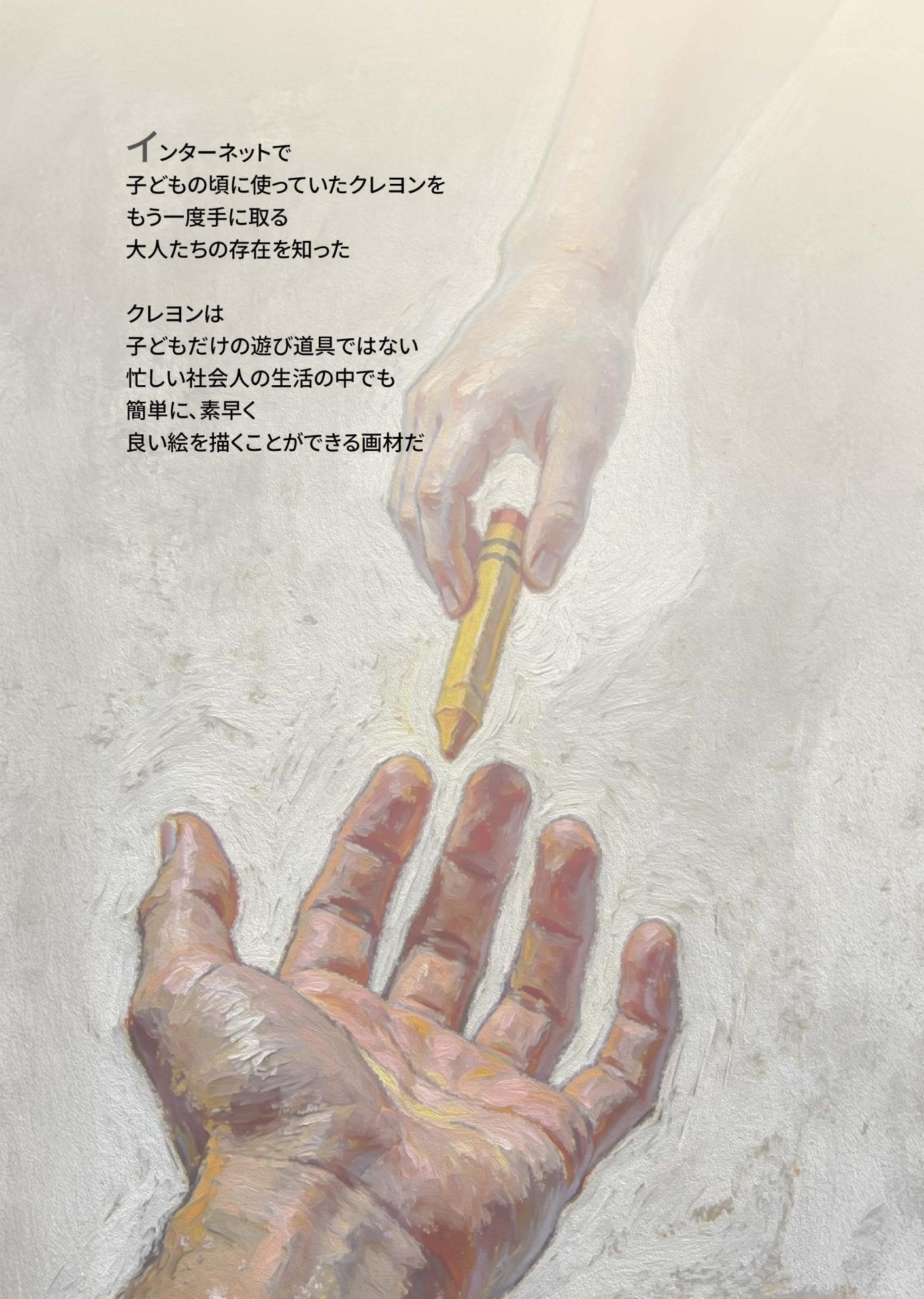
それから長い間  
私は絵を描かなくなった

A painting of a rainy street. In the foreground, a person stands on a wet sidewalk holding a black umbrella. To the right, a bus stop shelter is visible, featuring a digital display showing the time as 16:38 and some route information. The ground is reflective, and the overall atmosphere is somber and contemplative.

社会に出てから  
よく迷いや退屈を感じていた

仕事は16時30分には終わる  
それでも  
自由な時間が増えるほど  
退屈は深くなつた

仕事帰り  
あてもなく道を歩き  
時間をやり過ごしていた

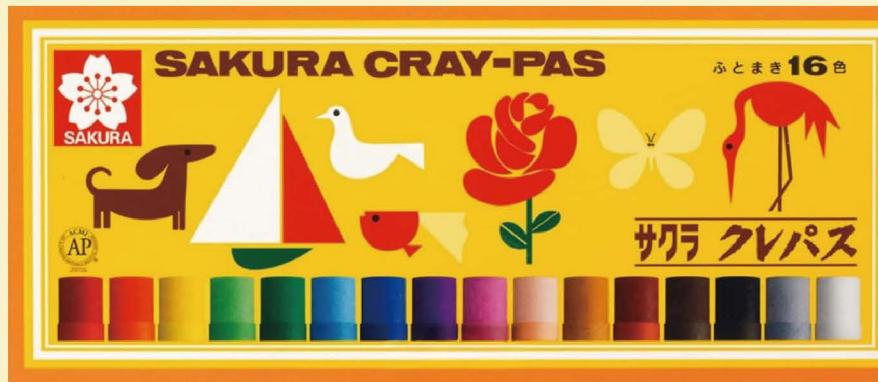


インターネットで  
子どもの頃に使っていたクレヨンを  
もう一度手に取る  
大人たちの存在を知った

クレヨンは  
子どもだけの遊び道具ではない  
忙しい社会人の生活の中でも  
簡単に、素早く  
良い絵を描くことができる画材だ

**何十年前**  
色の少ない売り場で  
黄色は目立っていた

**何十年後**  
色とデザインがあふれる世界でも  
それは同じ黄色で  
変わらず目に入ってくる

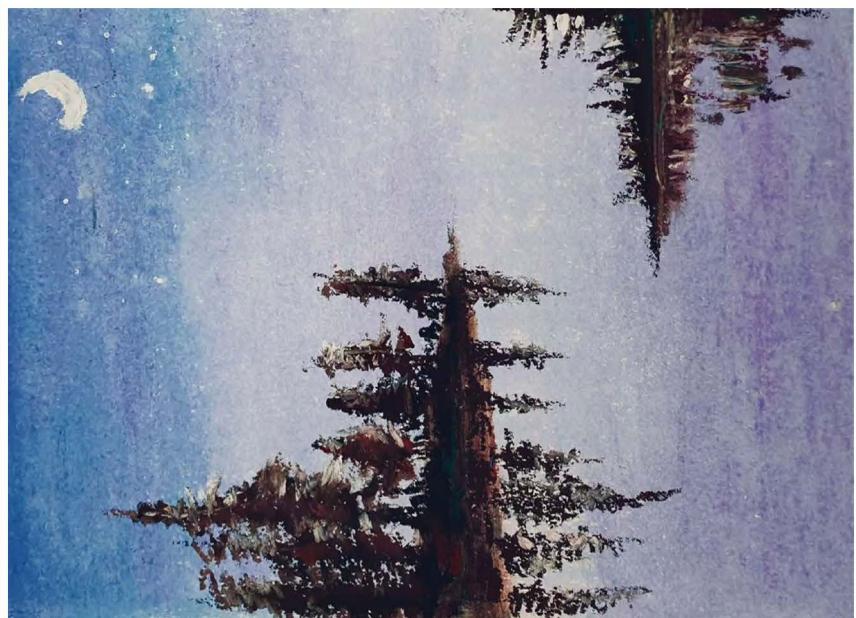


日本で販売されている箱には、  
小さな花や鳥、犬が描かれている。

それとは違い、  
中国で売られている  
SAKURAのクレヨンの箱には、  
大きな、  
笑顔の太陽が描かれている。











クレパスは  
1925年に生まれた

サクラクレパス株式会社  
あの黄色い箱の、はじまりだ

それでも  
黄色は  
ずっと、そこにあった



